

II 病院報告

1 病院の患者数

(1) 1日平均患者数の年次推移

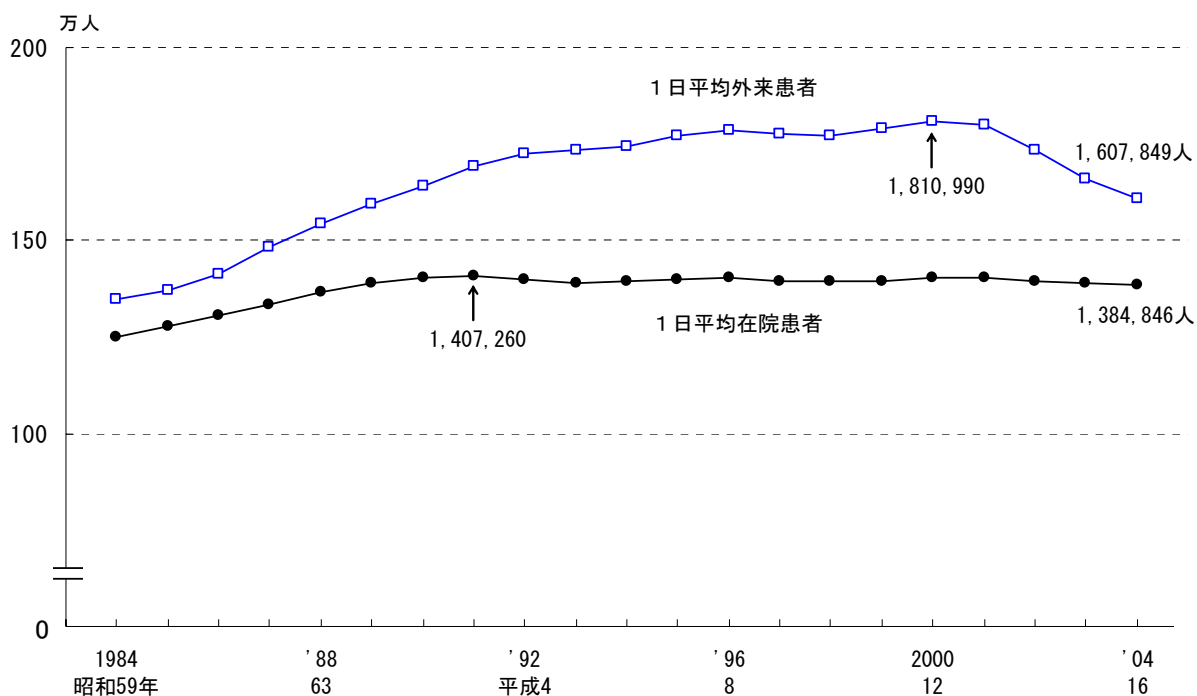
1日平均在院患者数は1,384,846人で、前年に比べ3,877人(0.3%)減少している。

1日平均外来患者数は1,607,849人で、平成12年をピークにその後減少しており、前年に比べ53,520人(3.2%)減少している。

(図1、表1、表2)

(参考) 統計表12 年間患者数、病院の種類一病床の種類別による1日平均患者数の年次推移

図1 1日平均患者数の年次推移



注：1日平均外来患者数については、現行の算出式で再計算したため、平成11年までの報告書と一致していない。

(2) 1日平均在院・新入院・退院患者数

1日平均在院患者数は1,384,846人、1日平均新入院患者数は38,160人、1日平均退院患者数は38,163人となっている。

このうち「一般病院」の1日平均在院患者数は1,140,901人で、前年に比べ0.2%減少している。

また、「精神病院」の1日平均在院患者数は243,853人で、前年に比べ0.8%減少している。

(表1)

(参考) 統計表12 年間患者数、病院の種類一病床の種類別による1日平均患者数の年次推移

表1 1日平均在院・新入院・退院患者数

各年間

	1日平均在院患者数			1日平均新入院患者数			1日平均退院患者数		
	平成16年 (2004)	平成15年 (2003)	対前年 増減率	平成16年 (2004)	平成15年 (2003)	対前年 増減率	平成16年 (2004)	平成15年 (2003)	対前年 増減率
	人	人	%	人	人	%	人	人	%
総数	1 384 846	1 388 723	△ 0.3	38 160	38 158	0.0	38 163	38 218	△ 0.1
精神病院	243 853	245 925	△ 0.8	623	607	2.6	628	613	2.4
一般病院 (再掲)	1 140 901	1 142 697	△ 0.2	37 536	37 550	△ 0.0	37 534	37 604	△ 0.2
精神病床	83 353	84 065	△ 0.8	340	332	2.4	345	340	1.5
療養病床	327 443	308 822	6.0	1 074	1 020	5.3	1 660	1 561	6.3
一般病床	723 715	742 606	△ 2.5	36 036	36 105	△ 0.2	35 444	35 611	△ 0.5

- 注：1) 総数には結核療養所を含む。
 2) 月途中で病院の種類が変更された場合、患者数は月末時の病院の種類別で計上されている。
 3) 平成15年の療養病床とは、療養病床及び経過の旧療養型病床群である。
 4) 平成15年の一般病床とは、一般病床及び経過の旧その他の病床（経過の旧療養型病床群を除く。）である。

(3) 1日平均外来患者数

1日平均外来患者数は1,607,849人で、前年に比べ3.2%減少している。

このうち「精神病院」は49,072人で、前年に比べ3.8%増加し、「一般病院」は1,558,767人で、前年に比べ3.4%減少している。（表2）

(参考) 統計表 12 年間患者数、病院の種類－病床の種類別にみた1日平均患者数の年次推移

表2 1日平均外来患者数

各年間

	1日平均外来患者数		対前年 増減率
	平成16年 (2004)	平成15年 (2003)	
	人	人	%
総数	1 607 849	1 661 369	△ 3.2
精神病院	49 072	47 255	3.8
一般病院	1 558 767	1 614 110	△ 3.4

注： 総数には結核療養所を含む。

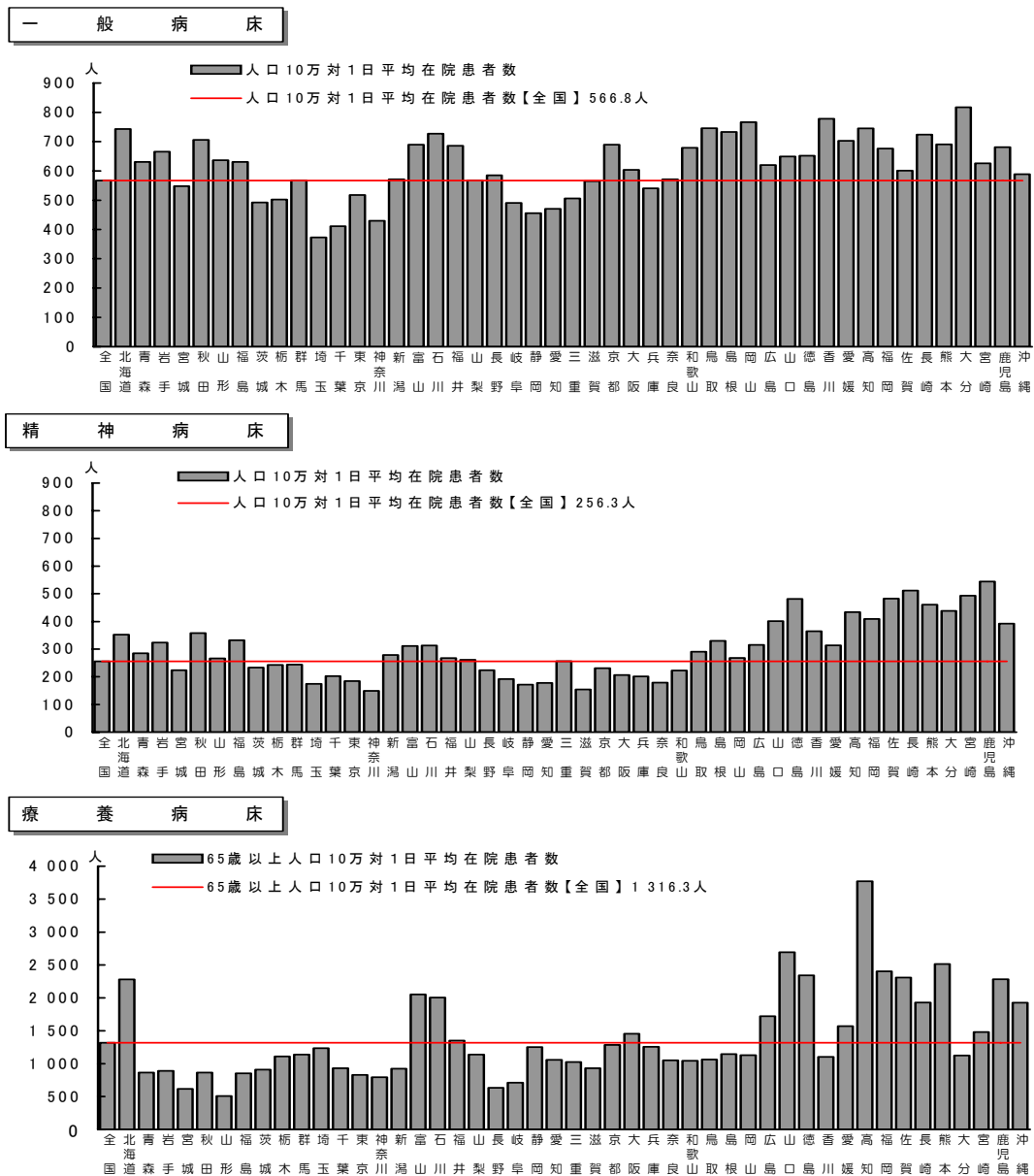
(4) 都道府県別にみた病院の人口10万対1日平均在院患者数

全国の人口10万対1日平均在院患者数を病床の種類別にみると、「一般病床」は566.8人で、前年(581.9人)に比べ15.1人減少、「精神病床」は256.3人で、前年(258.6人)に比べ2.3人減少しており、65歳以上人口10万対1日平均在院患者数の「療養病床」は1,316.3人で、前年(1,270.3人)に比べ46.0人増加している。

また、都道府県別にみると、「一般病床」は大分県(817.7人)が最も多く、次いで香川県(778.2人)となっており、埼玉県(373.3人)、千葉県(411.4人)などが少なくなっている。「精神病床」は鹿児島県(544.3人)が最も多く、次いで長崎県(512.2人)となっており、神奈川県(149.4人)、滋賀県(154.4人)などが少なくなっている。「療養病床」は高知県(3,770.9人)が最も多く、次いで山口県(2,691.5人)となっており、山形県(506.2人)、宮城県(618.3人)などが少なくなっている。(図2)

(参考) 統計表14 都道府県—14大都市・中核市(再掲)別にみた1日平均患者数
統計表15 都道府県—14大都市・中核市(再掲)別にみた人口10万対1日平均患者数

図2 都道府県別にみた病院の人口10万対1日平均在院患者数 平成16(2004)年



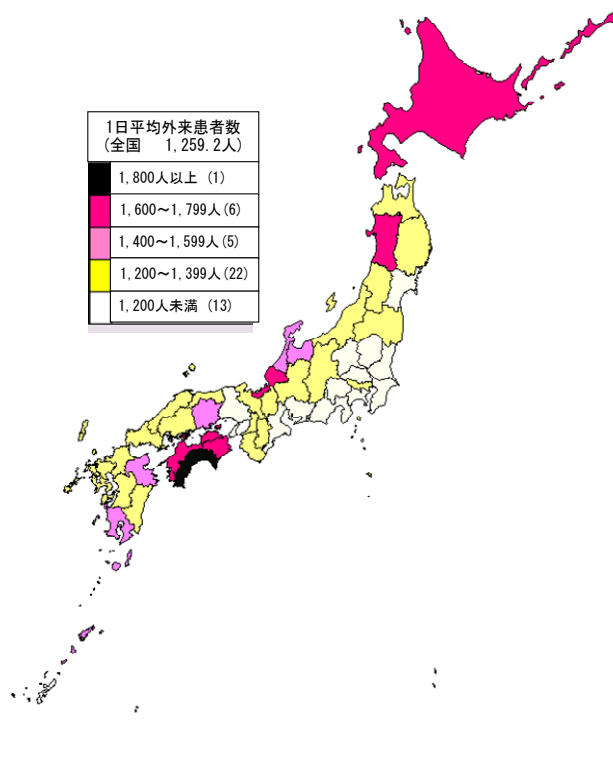
(5) 都道府県別にみた病院の人口10万対1日平均外来患者数

全国の人口10万対1日平均外来患者数は1,259.2人で、前年1,301.8人 compared to 42.6人減少している。

都道府県別にみると、高知県(1,913.3人)が最も多く、次いで香川県(1,782.9人)となっており、埼玉県(981.2人)、静岡県(985.7人)などが少なくなっている。

(図3)

図3 都道府県別にみた病院の人口10万対1日平均外来患者数
平成16(2004)年



(参考)

統計表14

都道府県-14大都市・中核市(再掲)別にみた1日平均患者数(p44)

統計表15

都道府県-14大都市・中核市(再掲)別にみた人口10万対1日平均患者数

2 病床利用率

病院の病床利用率は84.9%で、前年と同率である。

病床の種類別にみると、「精神病床」は92.3%、「一般病床」は79.4%になっている。(表3)

(参考) 統計表13 人口10万対1日平均患者数・病床の種類別にみた病床利用率・平均在院日数の年次推移

統計表16 都道府県-14大都市・中核市(再掲)別にみた病床利用率及び平均在院日数

表3 病床の種類別にみた病床利用率

各年間

	病床利用率		対前年増減
	平成16年(2004)	平成15年(2003)	
病院	%	%	
総数	84.9	84.9	0.0
精神病床	92.3	92.9	△ 0.6
感染症病床	2.6	2.4	0.2
結核病床	48.6	46.3	2.3
療養病床	93.5	93.4	0.1
一般病床	79.4	79.7	△ 0.3
一般診療所療養病床	79.9	80.8	△ 0.9

注：1) 平成15年の療養病床とは、療養病床及び経過の旧療養型病床群である。

2) 平成15年の一般病床とは、一般病床及び経過の旧その他の病床(経過の旧療養型病床群を除く。)である。

3 平均在院日数

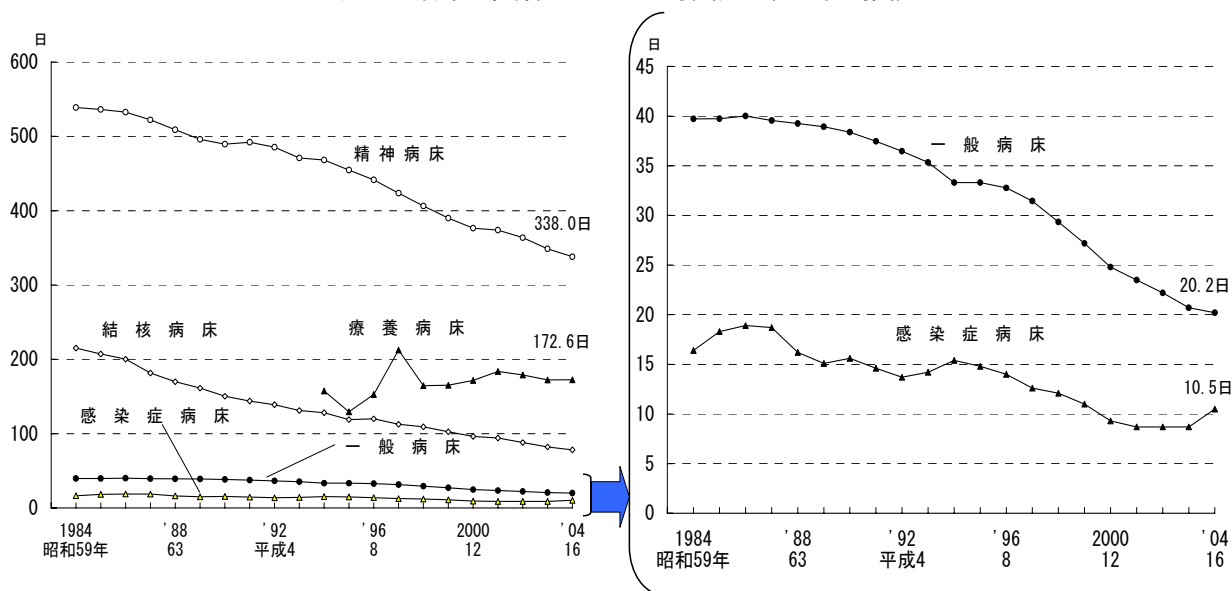
(1) 病床の種類別にみた平均在院日数の年次推移

病床の種類別平均在院日数を年次推移にみると、昭和62年以降全体的に短縮傾向にある。

(図4)

(参考) 統計表13 人口10万対1日平均患者数・病床の種類別にみた病床利用率・平均在院日数の年次推移

図4 病床の種類別にみた平均在院日数の年次推移



- 注：1) 平成14年4月に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」が施行され、「伝染病床」は「感染症病床」に改められた。
- 2) 「一般病床」は、昭和59～平成5年は「その他の病床」であり、平成5～平成12年は「その他の病床」のうち「療養型病床群」を除いたものであり、平成13～15年は「一般病床」及び「経過的古その他の病床（経過的古療養型病床群を除く。）」である。
- 3) 「療養病床」は、平成12年までは「療養型病床群」であり、平成13～15年は「療養病床」及び「経過的古療養型病床群」である。

(2) 病床の種類及び病床規模別にみた平均在院日数

病院の平均在院日数は36.3日で、前年に比べ0.1日短くなっている。

病床の種類別にみると、「精神病床」は338.0日、「一般病床」は20.2日で、前年に比べそれぞれ10.7日、0.5日短くなっている。「療養病床」は172.6日で、前年に比べ0.3日長くなっている。

また、一般診療所の「療養病床」は94.4日で、前年に比べ0.5日短くなっている。

(表4)

(参考)

統計表13

人口10万対1日平均患者数・病床の種類別にみた病床利用率・平均在院日数の年次推移

統計表16

都道府県-14大都市・中核市(再掲)別にみた病床利用率及び平均在院日数

表4 病床の種類別にみた平均在院日数

病 院	平均在院日数		対前年増減数
	平成16年(2004)	平成15年(2003)	
総 数	36.3	36.4	△ 0.1
精神病床	338.0	348.7	△ 10.7
感染症病床	10.5	8.7	1.8
結核病床	78.1	82.2	△ 4.1
療養病床	172.6	172.3	0.3
一般病床	20.2	20.7	△ 0.5
一般診療所療養病床	94.4	94.9	△ 0.5

- 注：1) 平成15年の療養病床とは、療養病床及び経過的古療養型病床群である。
- 2) 平成15年の一般病床とは、一般病床及び経過的古その他の病床（経過的古療養型病床群を除く。）である。

(3) 平均在院日数別にみた施設数の構成割合

平均在院日数階級別施設の構成割合をみると、「総数」は「30～60日未満」18.2%が最も高くなっている。

「精神病床」は「180～360日未満」22.8%、「感染症病床」は「7日未満」82.4%、「結核病床」は「60～90日未満」33.1%、「療養病床」は「180～360日未満」26.1%、「一般病床」は「14～21日未満」30.3%がそれぞれ最も高くなっている。(表5)

また、累積構成割合が初めて50%を超える平均在院日数階級をみると、「精神病床」は「360～540日未満」、「療養病床」は「180～360日未満」、「一般病床」は「21～30日未満」となっている。(表6)

表5 病床の種類及び平均在院日数別にみた施設数の構成割合 (%)

平成16(2004)年

	総数	精神病床	感染症病床	結核病床	療養病床	一般病床
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
7日未満	1.8	0.7	82.4	15.4	0.7	3.0
7～14日未満	4.7	-	11.6	1.4	0.1	7.9
14～21日 "	16.1	0.2	3.8	0.6	0.3	30.3
21～30日 "	13.3	0.8	1.3	1.7	0.8	27.0
30～60日 "	18.2	3.3	0.9	18.5	10.1	21.4
60～90日 "	7.8	5.8	-	33.1	11.9	4.7
90～180日 "	10.7	10.3	-	23.9	25.3	2.9
180～360日 "	10.5	22.8	-	3.7	26.1	1.1
360～540日 "	6.7	20.1	-	0.6	12.7	0.3
540～720日 "	4.2	14.6	-	0.6	6.4	0.2
720日以上	5.9	21.3	-	0.6	5.6	1.3

注：「7日未満」には、病床があるにもかかわらず、在院患者数がない場合が含まれる。

表6 病床の種類及び平均在院日数別にみた施設数の累積構成割合 (%)

平成16(2004)年

	総数	精神病床	感染症病床	結核病床	療養病床	一般病床
7日未満	1.8	0.7	82.4	15.4	0.7	3.0
7～14日未満	6.6	0.7	94.0	16.9	0.8	10.8
14～21日 "	22.6	0.9	97.8	17.4	1.1	41.1
21～30日 "	36.0	1.7	99.1	19.1	1.9	68.1
30～60日 "	54.2	5.0	100.0	37.6	12.0	89.5
60～90日 "	62.0	10.9	100.0	70.8	23.9	94.2
90～180日 "	72.7	21.2	100.0	94.7	49.1	97.1
180～360日 "	83.2	44.0	100.0	98.3	75.3	98.2
360～540日 "	89.9	64.1	100.0	98.9	88.0	98.5
540～720日 "	94.1	78.7	100.0	99.4	94.4	98.7
720日以上	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

注：「7日未満」には、病床があるにもかかわらず、在院患者数がない場合が含まれる。

(4) 都道府県別にみた平均在院日数

病床の種類別平均在院日数を都道府県別にみると、「一般病床」は長野県(17.5 日)が最も短く、次いで東京都・静岡県(18.0 日)となっており、和歌山県(24.1 日)、佐賀県(24.0 日)、青森県(23.2 日)などが長くなっている。

「精神病床」は東京都(245.6 日)が最も短く、次いで高知県(253.9 日)、島根県(255.0 日)となっており、鹿児島県(559.6 日)、徳島県(559.1 日)、和歌山県(460.8 日)などが長くなっている。

「療養病床」は宮城県(95.3 日)が最も短く、次いで長野県(96.0 日)、鳥取県(99.4 日)となっており、富山県(320.7 日)、沖縄県(242.2 日)、山口県(240.9 日)などが長くなっている。(図5)

(参考) 統計表 16 都道府県-14 大都市・中核市(再掲)別にみた病床利用率及び平均在院日数

図5 都道府県別にみた平均在院日数

平成16(2004)年

